

活用事例を紹介するシリーズ第15回目は「BIMデータ活用による風量測定用資料の自動作成」と「BIMデータ活用による風量測定ロボットの測定位置設定作業の低減」です。



標準活用事例（カラー版）は協会ホームページ内「BIM実装社会に向けての提言」（赤枠PDF）からもご覧頂けます。

BIM施工標準活用事例シート

No. 29

01 施工

02 施工

03 発注

04 工程

05 現場

06 安

07 品質

08 検

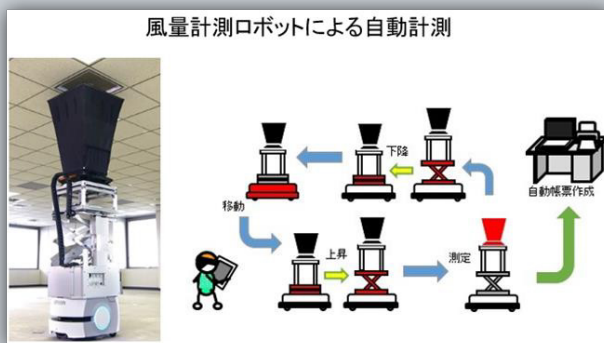
09 試運転調整

BIMデータ活用による風量測定ロボットの測定位置設定作業の低減

施工図データをIFCで出力して、風量計測ロボットに制気口の位置情報を連携
 →ロボットにおける測定位置の設定作業を低減



本事例のケース



【対応ソフト】●主利用 ○対応可能

対応ソフト	Revit	○	Rebro	●	T-fas	○
目的	風量測定ロボット(自社開発)の利用における測定位置設定作業の自動化					
メリット	風量測定ロボットの利用において、測定位置設定作業の手間を低減					
建築用途・規模	事務所ビル 地下1階地上10階 延べ面積 18,000㎡					
前工程への課題・要望	特になし					
施工側の課題	・小部屋などの計測は手計測の方が高効率 ・測定データは現状ではBIM側に保存不可					
工夫点・活用ツール	ビルの中での使用を考慮し、測定位置(制気口)の座標情報をBIMデータ/設備CADデータから抽出し、測定位置の設定作業に利用することで、設定作業時間を大幅に削減					
備考						

日空衛 BIM推進委員会